

生光学園 上位へ好発進

女子団体

柔道

緊張の中終始攻め続ける



2試合1人も落とさず初優勝の勢いそのままに、待たれる大会で好発進し、6強入りの女子団体勝ち進んだ。大舞台の緊張感の中、上位入賞が期待される。1回戦の国学院栃木戦

の先鋒(せんぽう)戦では、ひやりとする場面も。木村が開始8秒で背負い投げを決めた。2戦目、生光学園対筑紫大。大将戦で豪快な払い腰を決め、一本勝ちした生光学園の牛方(うしかた)は、松山市の愛媛県武道館(立花善晴撮影)で、投げを浴びて技ありを取られた。一頭の中が真っ白になり、焦りしかなかったと動揺しつつも、残り3秒で三つ目の指導を引き出して反則勝ち。仲間の思ひぬき戦に気持ちを引き締め直した中堅齊藤が上四方面を決め、大将牛方が横四方面を抑え込んだ。3人共が「緊張した」と舌をのぞいた初戦を突破。勝ち書きを取り戻すと、2回戦の筑紫(和歌山)戦も終始攻め続けて圧倒した。木村が開始早々の大外刈からの上四方面を決めた。(須見千次郎)

◇徳島関係の成績

生光学園 3-0 (栃木)	国学院栃木
○木村 反則勝ち	青田
○齊藤 上四方面	小林
○牛方 横四方面	高梨
▽同2回戦	
生光学園 3-0 (和歌山)	筑紫大
○木村 上四方面	貝尻
○齊藤 反則勝ち	西出
○牛方 払い腰	田原